

いぶり教職員だより

今回は今年度、昇任された教頭先生や離島人事交流をされた先生にインタビューを行いました！
みなさんがこれからのライフプランを考える上で、一つの選択肢としていただけたらと思います。

女性管理職

今回インタビューに答えていただいたのは・・・

伊達市立星の丘中学校 武田 珠后 教頭先生



Q 管理職を志した理由やきっかけは？

前任校では、特別支援学級の生徒が通常学級で学ぶ機会も多いことや、通常学級にも配慮の必要な生徒が多かったため、すべての先生に特別支援の考え方を学んでもらう必要がありました。

そこで、「特別支援担当の先生の力だけでは、たくさんいる配慮の必要な子どもたちへのケアは追いつかない。子どもたちを支援するため、まずは職員室にいる先生たちを支援しなくてはならない。」と考え、管理職を志しました。

Q 管理職になって気づいたことは？

ビジョンをしっかりと持って、取り組むことが大切ということです。

また、職員室が心地よい環境になるために、先生たちの特徴を一人一人よく把握したり、話を聴く機会を多く設けることで、それぞれの先生の良さを生かした学校経営ができることが重要だと気づきました。

また、法規や条例等をしっかりと理解していないと多くの人に迷惑をかけることになるので、勉強は欠かせないということです。

Q 管理職のやりがいや魅力は？

これまでより多くの方々と関わることになり、様々な考え方を知り、自分自身の視野を広げることができます。

職員室の担任として、先生たちの良さを引き出し、校内で活躍してもらうことを目標にやっていますが、その取り組みの中で大人同士の関係性が変化し、組織の雰囲気が変わってくると、嬉しく思います。

自分の取組の結果が、子どもたちに指導していた時よりも早く見えてくるように思います。

そして、職員室の変化は、学校全体の変化となり、結局は子どもたちの成長につながるものと思っています。

Q 管理職になるために必要だった支援は？

家族はもとより、周囲の方々の理解が必須です。先輩管理職の方々からのアドバイスや、経験談を聞かせていただくことは、自分のモチベーションを高めるためにも大変有効でした。また、面接試験に向けてのアドバイスや、練習といった支援は、大変ありがたく必要であったと思っています。



ちなみに・・・

令和4年9月15日に集合とzoomの遠隔を併用して実施した「女性教員のキャリアデザインセミナー」では、いろいろな立場の職員から意見交流が行われました！

Q 管理職として子育てを始める職員に対し気をつけていることは？

子育てに絶対はないので、価値観を押し付けるような言い方をしないようにしています。

心配なことは相談に乗れるように、話をしやすい雰囲気づくりを心がけています。

子育てに限らず、休暇をとりやすい環境であることと、自分がしていただいたように、育児に関わる休暇や各種手続きを伝えることができるようにしています。

Q ご自身が子育てをしている時に、管理職の、どのようなサポートが支えになりましたか？

学年の配置や部活動の担当などで配慮していただきました。また、子育てに関して取得できる休暇を教えていただいたり、子育てに限らず、相談に耳を傾けていただきました。話を聴いてもらえるということが安心感につながるということを実感しました。

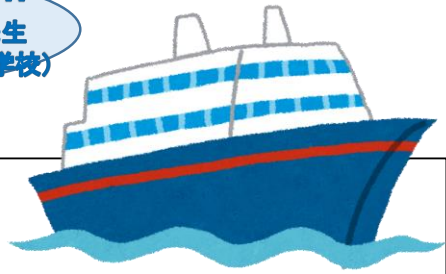
Q 後輩教職員へのメッセージを、お聞かせください！

教職員のなり手が少ないといったニュースが多く聞かれます。困難なこともたくさんありますが、みなさんで知恵を出し合って取り組んでいくことで改善できることも多いと思います。既存のものにとらわれず、新しい発想を出し合って「どうせムリ」など思わずに学校づくりに携わってほしいと思います。

子どもたちは先生たちの後ろ姿を見て育つ一面もあります。先生たちが生き活きと日々過ごしている姿が、子どもたちに好影響をもたらすと思います。身近にいる大人の素敵な姿に憧れて、大人になることを楽しみにできる子どもが増えると様々な社会問題の解決につながっていくと考えますので、ぜひ素敵な大人として子どもたちと関わっていきましょう。

離島人事交流

今回インタビューに答えていただいたのは…
羽幌町立天売中学校 近藤 雅敏 先生
(異動前 苫小牧市立青翔中学校)



離島人事交流のねらいや応募要件とは…？

☑ねらい

離島との人事交流を通じ、地理的特性から行動範囲が島内に限られがちな児童生徒の教育活動に他管内・異種学校での多様な経験を生かすことにより、離島所在校における教育活動のより一層の活性化を図るものです

☑交流期間

原則3年間

☑応募要件

初任段階研修を修了している方

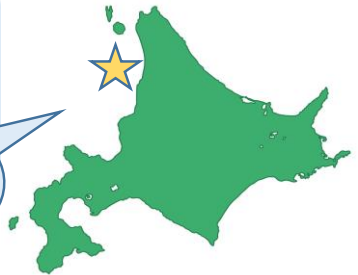
☑人事交流終了後の取扱い

人事交流異動(交流)元の教育局管内へ異動(戻る)することを原則とする

Q 現在勤務している学校や地域の様子は？

羽幌町から日本海西方28km沖にある周囲12km、人口260名の小島。
島全体が国の天然記念物に指定され、海鳥の楽園ともいわれる。
小学生7名、中学生7名、教職員13名。

天売中学校は
ここ！



Q 現任校での勤務状況をお聞かせください！

小学校3年生、4年生および中学校全学年の理科を担当。
教務部研修係に所属。

Q 生活の様子を教えてください！

初めての小学生との学校生活は、とても新鮮な感覚でした。児童に一輪車の乗り方を教わり、54歳にして一輪車に挑戦。子どもたちに励まされ、何度転倒しても諦めず、4カ月後には乗れるようになりました。自分でも成長を実感し、現在も日々練習に励んでいます。

学校に隣接した教員住宅(前年リフォーム)での生活は、春先から冬まで虫が多いこと以外は快適です。温暖な気候のため雑草の成長が速く、5月から10月まで、雨天以外は毎日のように学校敷地や住宅周辺の草刈りを行っています。ボランティアで散策路の除草作業も手伝い、地域の方と共に汗を流すことで交流を深める良い経験となっています。

また、島の釣り大会に出るため本格的に釣りを始め、船で沖釣りも何度か経験しました。同年代の島民の方と仲良くさせていただき、週1~2回は個人的に交流し、一週間があつという間に過ぎていく日々です。大自然の厳しさや美しさの中、この歳にしてワクワクする体験や旬の食材を堪能し、生きていることに感謝する毎日を過ごしています。

Q 離島人事交流を希望した理由は？

大規模校の経験が多く、所属学年の生徒の名前と顔が一致しないことへの葛藤がありました。また、コロナ禍による行動制限が続く世の中に閉塞感を感じている中で、心筋梗塞により体育館で倒れ、同僚に助けられた命。長くない教員人生を自分らしく働き、自分らしく生活したいと思い、離島人事交流に応募しました。

Q 離島人事交流者として勤務することの魅力・メリットは？

道内に5つある有人島。胆振管内のへき地以上に生活が厳しいと感じるかは、心の持ちようで変わります。離島人事交流は、勤務年数が限定されており、いずれ胆振に戻れるので、安心して短い島生活を満喫したいです。自らが地域住民の一人として、どのように生活し、どのように地元へ貢献していくのか。自ら行動できる人には、全てが新鮮な体験になるはずですよ。

Q 離島人事交流者としての勤務をお考えの皆さんへメッセージをお願いします！

ネットショッピングも利用できるが、なるべく地域還元と思い、地元商店を利用しています。そういう点では、若い方よりもある程度勤続経験の長い方のほうが出費の負担が少ないかもしれません。また、晴れていても風や波の高さが基準を上回ると2~3日欠航が続くことはよくありますのでご注意ください！

インタビューにご協力いただいたみなさま、誠にありがとうございました！